

明日の農業を築く「あぶくま農学校」開校式

農業公社だより

発行
 社団法人
 角田市農業振興公社
 TEL 63-2328
 FAX 61-1521



▲あぶくま農学校の客員教授の皆さん

また、あぶくま農学校の全体構想を、農業戦略会議メンバー鎌田源秋さんから発表し、学校の講師陣に壇上にご紹介いただきました。校長には、公社理事長の佐藤清吉、角田市長、副校長は、公社副理事長のJAみやぎ仙南みやぎ仙南佐藤宏代表理事組合長、同じく副校長に角田市教育

角田の農業を担う人材を地域ぐるみで育てようと十一月十一日、JAみやぎ仙南角田地区農協祭の会場で、「あぶくま農学校」の開校式を行いました。
 開校式は、角田市君萱の子ども神楽とジャズサックスブレイヤー梅津和時(仙台市出身)さんとのジョイント演奏で幕開。公社理事長の佐藤清吉市長から開校宣言をしたあと、「あぶくま農学校の詩」の朗読を角田市藤田の荒川庄助さん、娘の雪子さん、孫の大樹(小学5年生)君の三人から行っていただきました。



▲ジョイント演奏で幕開け

と自立農業塾長も努める公社顧問の小松光一さんを紹介し、百姓先生ということで、農家の方々も紹介しました。
 続いて、客員教授に就任した宮城県知事浅野史郎さん、角田市長佐藤清吉さんと司会をしていただいたデザイナーの林佳恵(東京在住)さんの三人で「あぶくま農学校の夢を語る」と題した、鼎(てい)談を行いました。
 最後に、食農学習の実績報告というところで、東京目黒区緑ヶ丘小学校五年生五人から、今年、角田での田植えから稲刈りまでの農業体験の感想を披露していただきました。その中で、田植えや稲刈りの体験感想に、「はじめて見た田んぼは想像より大きくて、びっくりしました。最初の



▲あぶくま農学校のシンボルマーク

麦わら帽子をイメージしたシンボルマーク。自然との共生ということで昆虫や動物をあしらい、その中心に農夫を据えています。

土の感じは、暖かくて、粘りたかったです。あの足の感じは忘れられません。」と、また「農家の方々が生懸命に作っているのだからと思うとお米が大好きになりました。これからも、お米を食べるときは、残さず、感謝して食べたいと思います。この頃、お米を食べていると、角田の人達を思い浮かべます。」と発表しました。
 以上な内容で開校式は、正午に終了し農協祭の参加者も含めて多くの人が参加していただきました。



▲緑ヶ丘小学校の皆さん



▲親子三代で詩の朗読



▲あぶくま農学校の夢を語る